

平成23年度第3回サイバー・キャンパス・コンソーシアム教育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成23年10月7日（金）17:00～19:00

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：難波委員、三尾委員、竹熊委員（スカイプ参加）

井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 検討事項

1. 本日の記録担当選出

2. 学士力実現に必要なICT活用の授業モデル案のまとめ

資料確認の後、事務局長より、検討方針として、次のような説明があった。

「授業のねらいと授業のしくみが最も重要な要素であるが、5年先のモデルを提示してほしいので、今のレベルを少し工夫すれば可能なものは削除し、3案について棲み分けがきれいにできるのであれば問題ないが、そうでなければ、1つに絞ってもいいので、5年先に通用するモデルを提示してほしい。まずはこのモデルがそれにふさわしいかどうかを検討してほしい。」

この観点をもとに、英語や国際関係学など他の領域で作成したモデル案を確認した。例えば英語の場合、英語の授業と専門の授業を統合しようという考え方を投入するモデル案を提示している。これらを踏まえて、すでに提示された教育学の3つのモデル案を検討した。主な意見は以下の通りである。

○5年先のことを検討するなら教育学をグローバルにやっている第3案(以下③)を強調すべき。

○3案併記を希望するが、あえて3つのモデル案の欠点をいえば、第1案(以下①)を担当している委員は来年退官で、継続できない。第2案(以下②)は技術面に偏っている。③は、内容が国際で他の分野と区別がつきにくいということがあげられる。サイバー委員のご意見を聞いた上で絞ってもいいかと思っていたが、時間的に今英断を下す必要がある。

○①と②を合併し、①の学生に発表させるという場面において、②で示したITの活用を手段として取り組んではどうか。

○国際的な問題、留学生との関わりはこれから特に必要なので、③は残しておきたい方法論。

○③は到達目標3(直面する課題や問題に自らが積極的に関心を持つことができる)を達成する

ために、このモデルは狭小すぎるのではないか。

- 元々は、自分の授業紹介を行うというところから始まったので、どうしても担当している授業「国際理解教育論」に引きずられている。新たな方針を伝えてもらえれば、それに併せてモデル案を再考したい。
- 5年先には、新学習指導要領のもと、新しい学びのスタイル(探求、協働、体験)を身につけた学生が大学に入学するので、それに対応した高次の授業スタイルを考えてほしい。
- ①や②に③の国際理解の考えを取り入れてはどうか。
- やはり、比較教育学の観点が必要であるから、①と②を統合し、③は討論などのスキルを導入するという方向で絞るべきだ。
- 教育の問題は教育の質の問題。資料17(天野郁夫「ユニバーサル化と大学教員」)に示されるように、教員もユニバーサル化になっており、時代の変化に伴って多様化しているから、学び直しをしておかなければならない。

以上のような議論の結果、最終的な方針として、①の案に②の手法を取り込んで1つのモデルを作成する。また、第2のモデルとして到達目標3を実現するための新たな授業モデルを担当委員で再構築することとなった。

3.今後の検討スケジュールについて

今回は10月24日(月)13時30分より再検討することとなった。

(新たなモデル案に関しては委員会前に話し合いの機会を持つ。)

4.その他:<資料一覧>

- 01 第3回次第
- 02 教育学委員名簿
- 03 参考1 英語学モデル1
- 04 参考2 英語学モデル2
- 05 参考3 国際関係学モデル1
- 06 参考4 国際関係学モデル2
- 07 参考5 サイバーFD研究委員へ
- 08 ①教育学士力の考察
- 09 ②学士力の実現を目指すICT活用モデル
- 10 ③.1 教育学授業改善モデル 中間案1(事務局編集&担当委員再編集)
- 11 ③.2 教育学授業改善モデル 中間案2(事務局編集&担当委員再編集)

- 12 ③.3 教育学授業改善モデル 中間案3(事務局編集&担当委員再編集)
- 13 ④.1 教育学授業改善モデル 中間案1(最終事務局編集)
- 14 ④.2 教育学授業改善モデル 中間案3(最終事務局編集)
- 15 ④.3 教育学授業改善モデル 中間案2(最終事務局編集)
- 16 第2回議事録
- 17 追加分①天野郁夫「ユニバーサル化と大学教員」『内外教育』
- 18 追加分②社会学の教育改善モデル